

1 点 A $(2+i)$, B $(-1-2i)$, C (3) , D $(-2i)$ を複素数平面上に図示せよ。

3 (1) $\alpha\bar{\beta}$ が実数でないとき, 次の複素数は実数, 純虚数のどちらであるか。

(ア) $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta$

(イ) $\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta$

(2) $a, b, c (a \neq 0)$ は実数とする。5次方程式 $ax^5 + bx^2 + c = 0$ が虚数解 α をもつとき, $\bar{\alpha}$ もこの方程式の解であることを示せ。

5 z, α, β を複素数とする。

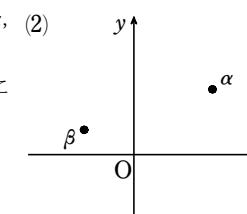
(1) $|z-3|=|z+3i|$ のとき, 等式 $z + i\bar{z} = 0$ が成り立つことを示せ。

(2) $|\alpha|=|\beta|=|\alpha-\beta|=2$ のとき, $|\alpha+\beta|$ の値を求めよ。

2 (1) $\alpha=a+2i, \beta=-2-4i, \gamma=3+bi$ とする。4点 0, α , (2) β, γ が一直線上にあるとき, 実数 a, b の値を求めよ。

(2) 右図の複素数平面上の点 α, β について, 次の点を図に示せ。

- (ア) $\alpha+\beta$
(イ) $\alpha-\beta$
(ウ) $\alpha+2\beta$
(エ) $-(\alpha+2\beta)$



4 (1) $z=1+i$ のとき, $\left|z + \frac{1}{z}\right|$ の値を求めよ。

(2) 2点 A $(-1+5i)$, B $(3+2i)$ 間の距離は $\sqrt{\boxed{\quad}}$ である。また, この2点から等距離にある虚軸上の点 C を表す複素数は $i\sqrt{\boxed{\quad}}$ である。

6 z, α, β を複素数とする。

(1) $|z-2i|=|1+2iz|$ のとき, $|z|=1$ であることを示せ。

(2) $|\alpha|=|\beta|=|\alpha+\beta|=2$ のとき, $\alpha^2+\alpha\beta+\beta^2$ の値を求めよ。

7 絶対値が 1 で, $\frac{z+1}{z^2}$ が実数であるような複素数 z を求めよ。

9 $\left(\alpha + \frac{1}{\alpha}\right)\left(\overline{\alpha} + \frac{1}{\alpha}\right) = 4$ であるとき, 複素数 α の絶対値 $|\alpha|$ を求めよ。

11 α を複素数とする。等式 $\alpha(|z|^2 + 2) + i(2|\alpha|^2 + 1)\overline{z} = 0$ を満たす複素数 z をすべて求めよ。

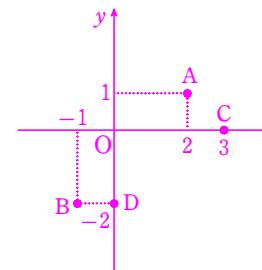
8 $z = a + bi$ (a, b は実数) とするとき, 次の式を z と \overline{z} を用いて表せ。

- (1) a (2) b (3) $a - b$ (4) $a^2 - b^2$

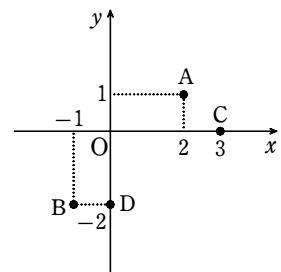
10 α, z は複素数で, $|\alpha| > 1$ であるとする。このとき, $|z - \alpha|$ と $|\overline{\alpha}z - 1|$ の大小を比較せよ。

1 点 A(2+i), B(-1-2i), C(3), D(-2i) を複素数平面上に図示せよ。

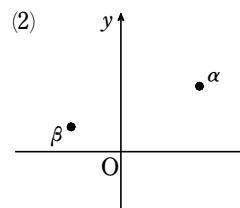
解答 [図]



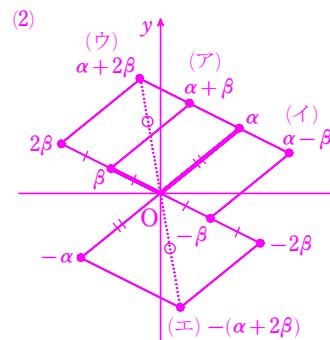
解説

2 (1) $\alpha=a+2i$, $\beta=-2-4i$, $\gamma=3+bi$ とする。4点 0, α , β , γ が一直線上にあるとき、実数 a , b の値を求めよ。(2) 右図の複素数平面上の点 α , β について、次の点を図に示せ。

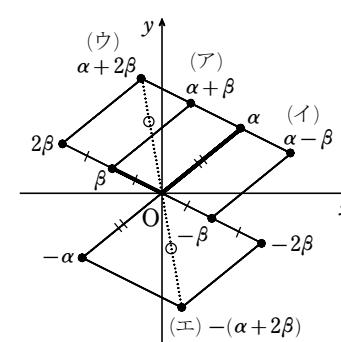
- (ア) $\alpha+\beta$ (イ) $\alpha-\beta$
(ウ) $\alpha+2\beta$ (エ) $-(\alpha+2\beta)$

解答 (1) $a=1$, $b=6$

- (2) (ア) [図] (イ) [図]
(ウ) [図] (エ) [図]

(1) $\alpha \neq 0$ であるから、条件より $\beta=k\alpha$ ①, $\gamma=l\alpha$ ②となる実数 k , l がある。①から $-2-4i=ka+2ki$ よって $-2=ka$, $-4=2k$ これを解いて $k=-2$, $a=1$ ②から $3+bi=l+2li$ ゆえに $3=l$, $b=2l$ これを解いて $l=3$, $b=6$

2 右の図で、線分で囲まれた四角形はすべて平行四辺形である。このとき、(ア)～(エ)の各点は、図のようになる。

3 (1) $\alpha\bar{\beta}$ が実数でないとき、次の複素数は実数、純虚数のどちらであるか。

- (ア) $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta$ (イ) $\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta$

(2) a , b , c ($a \neq 0$) は実数とする。5次方程式 $ax^5+bx^2+c=0$ が虚数解 α をもつとき、 $\bar{\alpha}$ もこの方程式の解であることを示せ。

解答 (1) (ア) 実数 (イ) 純虚数 (2) 略

解説

(1) (ア) $z=\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta$ とすると

$$\bar{z} = \overline{\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta} = \overline{\alpha\bar{\beta}} + \overline{\bar{\alpha}\beta} = \overline{\alpha}\overline{\beta} + \overline{\bar{\alpha}}\beta = \overline{\alpha}\overline{\beta} + \alpha\bar{\beta} = \alpha\bar{\beta} + \alpha\bar{\beta} = z$$

したがって、 z は実数である。(イ) $z=\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta$ とすると

$$\bar{z} = \overline{\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta} = \overline{\alpha}\overline{\beta} - \overline{\bar{\alpha}}\beta = \overline{\alpha}\overline{\beta} - \alpha\bar{\beta} = -(\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta) = -z$$

また、 $\alpha\bar{\beta}$ は実数でないから $\overline{\alpha\bar{\beta}} \neq \alpha\bar{\beta}$ すなわち $\overline{\alpha\bar{\beta}} \neq \alpha\bar{\beta}$ よって $\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta \neq 0$ すなわち $z \neq 0$ したがって、 z は純虚数である。別解 $\alpha=a+bi$, $\beta=c+di$ (a , b , c , d は実数) とすると

$$\alpha\bar{\beta} = (a+bi)(c-di) = ac+bd+(-ad+bc)i \quad \dots \dots ①$$

$$\bar{\alpha}\beta = (a-bi)(c+di) = ac+bd+(ad-bc)i \quad \dots \dots ②$$

(ア) ①+②から $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta = 2(ac+bd)$ よって、 $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta$ は実数である。(イ) ①-②から $\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta = 2(bc-ad)i$ $\alpha\bar{\beta}$ は実数ではないから、①より $bc-ad \neq 0$ よって、 $\alpha\bar{\beta} - \bar{\alpha}\beta$ は純虚数である。(2) 5次方程式 $ax^5+bx^2+c=0$ が $x=\alpha$ を解にもつから $a\alpha^5+b\alpha^2+c=0$ ゆえに $\overline{a\alpha^5+b\alpha^2+c} = \overline{0}$ すなわち $\overline{a\alpha^5+b\alpha^2+c} = 0$ ここで、 $\overline{a\alpha^5} = \overline{a}\overline{\alpha^5} = a(\overline{\alpha})^5$, $\overline{b\alpha^2} = \overline{b}\overline{\alpha^2} = b(\overline{\alpha})^2$ であるから

$$a(\overline{\alpha})^5 + b(\overline{\alpha})^2 + c = 0$$

したがって、与えられた方程式は $x=\overline{\alpha}$ を解にもつ。4 (1) $z=1+i$ のとき、 $|z+\frac{1}{z}|$ の値を求めよ。(2) 2点 A(-1+5i), B(3+2i) 間の距離は $\sqrt{\boxed{\quad}}$ である。また、この2点から等距離にある虚軸上の点 C を表す複素数は $\sqrt{\boxed{\quad}}$ である。解答 (1) $\frac{3}{\sqrt{2}}$ (2) (ア) 5 (イ) $\frac{13}{6}i$

解説

$$(1) \left|z + \frac{1}{z}\right|^2 = \left(z + \frac{1}{z}\right) \left(\overline{z + \frac{1}{z}}\right) = \left(z + \frac{1}{z}\right) \left(\overline{z} + \frac{1}{\overline{z}}\right) = z\overline{z} + \frac{1}{z\overline{z}} + 2 = |z|^2 + \frac{1}{|z|^2} + 2$$

ここで、 $|z|^2 = |1+i|^2 = 1^2 + 1^2 = 2$ であるから

$$\left|z + \frac{1}{z}\right|^2 = 2 + \frac{1}{2} + 2 = \frac{9}{2} \quad \text{よって} \quad \left|z + \frac{1}{z}\right| = \frac{3}{\sqrt{2}}$$

$$\text{別解} \quad |z|^2 = 2 \text{ であるから} \quad z\overline{z} = 2 \quad \text{よって} \quad \frac{1}{z} = \frac{z}{2}$$

$$\text{ゆえに} \quad \left|z + \frac{1}{z}\right| = \left|z + \frac{z}{2}\right| = \frac{3}{2}|z| = \frac{3\sqrt{2}}{2}$$

$$(2) AB^2 = |(3+2i) - (-1+5i)|^2 = |4-3i|^2 = 4^2 + (-3)^2 = 25$$

$$AB > 0 \text{ であるから} \quad AB = \sqrt{25}$$

また、求める虚軸上の点を C(α) とすると、 $\alpha = bi$ (b は実数) とおける。

$$AC = BC \text{ であるから} \quad AC^2 = BC^2$$

$$AC^2 = |1+(b-5)i|^2 = 1^2 + (b-5)^2 = b^2 - 10b + 26$$

$$BC^2 = |-3+(b-2)i|^2 = (-3)^2 + (b-2)^2 = b^2 - 4b + 13$$

$$\text{よって} \quad b^2 - 10b + 26 = b^2 - 4b + 13 \quad \text{これを解いて} \quad b = \frac{13}{6}$$

ゆえに、点 C を表す複素数は $\sqrt{\frac{13}{6}}i$ 5 z , α , β を複素数とする。(1) $|z-3|=|z+3i|$ のとき、等式 $z+i\overline{z}=0$ が成り立つことを示せ。(2) $|\alpha|=|\beta|=|\alpha-\beta|=2$ のとき、 $|\alpha+\beta|$ の値を求めよ。解答 (1) 略 (2) $2\sqrt{3}$

解説

$$(1) |z-3|=|z+3i| \text{ から} \quad |z-3|^2 = |z+3i|^2$$

$$\text{ゆえに} \quad (z-3)(\overline{z-3}) = (z+3i)(\overline{z+3i})$$

$$\text{よって} \quad (z-3)(\overline{z-3}) = (z+3i)(\overline{z+3i})$$

$$\text{展開すると} \quad z\overline{z} - 3z - 3\overline{z} + 9 = z\overline{z} - 3iz + 3i\overline{z} + 9$$

$$\text{整理すると} \quad (1-i)z = -(1+i)\overline{z}$$

$$\text{ゆえに} \quad z = -\frac{1+i}{1-i}\overline{z} = -\frac{(1+i)^2}{(1-i)(1+i)}\overline{z} = -\frac{1+2i+i^2}{1-i^2}\overline{z} = -\frac{2i}{2}\overline{z} = -i\overline{z}$$

$$\text{したがって} \quad z + i\overline{z} = 0$$

$$(2) |\alpha-\beta|^2 = (\alpha-\beta)(\overline{\alpha-\beta}) = (\alpha-\beta)(\overline{\alpha-\beta}) = \alpha\overline{\alpha} - \alpha\overline{\beta} - \overline{\alpha}\beta + \beta\overline{\beta} = |\alpha|^2 - \alpha\overline{\beta} - \overline{\alpha}\beta + |\beta|^2$$

条件より、 $|\alpha|^2 = |\beta|^2 = |\alpha-\beta|^2 = 4$ であるから $4 = 4 - \alpha\overline{\beta} - \overline{\alpha}\beta + 4$

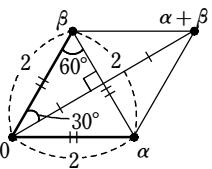
$$\text{ゆえに} \quad \alpha\overline{\beta} + \overline{\alpha}\beta = 4$$

$$\text{よって} \quad |\alpha+\beta|^2 = (\alpha+\beta)(\overline{\alpha+\beta}) = (\alpha+\beta)(\overline{\alpha+\beta}) = \alpha\overline{\alpha} + \alpha\overline{\beta} + \overline{\alpha}\beta + \beta\overline{\beta} = |\alpha|^2 + \alpha\overline{\beta} + \overline{\alpha}\beta + |\beta|^2 = 4 + 4 + 4 = 12$$

$$\text{したがって} \quad |\alpha+\beta| = 2\sqrt{3}$$

別解 $|\alpha|=|\beta|=|\alpha-\beta|=2$ から、複素数平面上の3点
0, α , β は1辺の長さが2の正三角形をなす。

図から $|\alpha+\beta|=2\times\sqrt{3}=2\sqrt{3}$



6 z, α, β を複素数とする。

- (1) $|z-2i|=|1+2iz|$ のとき、 $|z|=1$ であることを示せ。
(2) $|\alpha|=|\beta|=|\alpha+\beta|=2$ のとき、 $\alpha^2+\alpha\beta+\beta^2$ の値を求めよ。

解答 (1) 略 (2) 0

解説

(1) $|z-2i|=|1+2iz|$ から $|z-2i|^2=|1+2iz|^2$
ゆえに $(z-2i)(\bar{z}-2i)=(1+2iz)(\bar{1}+2i\bar{z})$
よって $(z-2i)(\bar{z}+2i)=(1+2iz)(1-2i\bar{z})$
展開すると $\bar{z}z+2iz-2i\bar{z}+4=1-2i\bar{z}+2iz+4z\bar{z}$
整理すると $3z\bar{z}-3=0$ よって $z\bar{z}=1$
したがって、 $|z|^2=1$ であるから $|z|=1$

(2) $|\alpha|=|\beta|=2$ から $|\alpha|^2=|\beta|^2=4$ ゆえに $\alpha\bar{\alpha}=\beta\bar{\beta}=4$
よって $\bar{\alpha}=\frac{4}{\alpha}, \bar{\beta}=\frac{4}{\beta}$ ①

また、 $|\alpha+\beta|=2$ から $|\alpha+\beta|^2=4$ ゆえに $(\alpha+\beta)(\bar{\alpha}+\bar{\beta})=4$
①を代入して $(\alpha+\beta)\left(\frac{4}{\alpha}+\frac{4}{\beta}\right)=4$ よって $(\alpha+\beta)\cdot\frac{4(\alpha+\beta)}{\alpha\beta}=4$
ゆえに $(\alpha+\beta)^2=\alpha\beta$ したがって $\alpha^2+\alpha\beta+\beta^2=0$

7 絶対値が1で、 $\frac{z+1}{z^2}$ が実数であるような複素数 z を求めよ。

解答 $z=\pm 1, \frac{-1\pm\sqrt{3}i}{2}$

解説

$\frac{z+1}{z^2}$ が実数であるための条件は $\left(\frac{z+1}{z^2}\right)=\frac{z+1}{z^2}$

すなわち $\frac{\bar{z}+1}{(\bar{z})^2}=\frac{z+1}{z^2}$ [A]

両辺に $z^2(\bar{z})^2$ を掛けて $z^2(\bar{z}+1)=(\bar{z})^2(z+1)$

よって $z\cdot z\bar{z}+z^2=\bar{z}\cdot z\bar{z}+(\bar{z})^2$

$|z|=1$ より $z\bar{z}=1$ であるから $z+z^2=\bar{z}+(\bar{z})^2$

ゆえに $z-\bar{z}+z^2-(\bar{z})^2=0$

よって $(z-\bar{z})(1+z+\bar{z})=0$

ゆえに $z-\bar{z}=0$ または $1+z+\bar{z}=0$

[1] $z-\bar{z}=0$ のとき $\bar{z}=z$

よって、 z は実数であるから、 $|z|=1$ より $z=\pm 1$

[2] $1+z+\bar{z}=0$ のとき $z+\bar{z}=-1$

また、 $z\bar{z}=1$ であるから、 z, \bar{z} は2次方程式 $x^2+x+1=0$ の解である。

この方程式を解くと $x=\frac{-1\pm\sqrt{1^2-4\cdot 1}}{2\cdot 1}=\frac{-1\pm\sqrt{3}i}{2}$

[1], [2] から $z=\pm 1, \frac{-1\pm\sqrt{3}i}{2}$

別解 $z\bar{z}=1$ から $\frac{1}{z}=z$ よって $\frac{\bar{z}+1}{(\bar{z})^2}=\frac{1}{z}+\left(\frac{1}{z}\right)^2=z+z^2$
ゆえに、 [A] は $z+z^2=\frac{z+1}{z^2}$ 両辺に z^2 を掛けて $z^2\cdot z(z+1)=z+1$
よって $(z+1)(z-1)(z^2+z+1)=0$
これを解いて $z=\pm 1, \frac{-1\pm\sqrt{3}i}{2}$

8 $z=a+bi$ (a, b は実数) とするとき、次の式を z と \bar{z} を用いて表せ。

(1) a (2) b (3) $a-b$ (4) a^2-b^2

解答 (1) $\frac{1}{2}z+\frac{1}{2}\bar{z}$ (2) $-\frac{1}{2}iz+\frac{1}{2}i\bar{z}$ (3) $\frac{1}{2}(1+i)z+\frac{1}{2}(1-i)\bar{z}$
(4) $\frac{1}{2}z^2+\frac{1}{2}(\bar{z})^2$

解説

$z=a+bi$ のとき $\bar{z}=a-bi$

(1) $z+\bar{z}=2a$ であるから $a=\frac{1}{2}z+\frac{1}{2}\bar{z}$

(2) $z-\bar{z}=2bi$ であるから

$$b=\frac{z-\bar{z}}{2i}=-\frac{i(z-\bar{z})}{2}=-\frac{1}{2}iz+\frac{1}{2}i\bar{z}$$

(3) (1), (2) から

$$a-b=\left(\frac{1}{2}z+\frac{1}{2}\bar{z}\right)-\left(-\frac{1}{2}iz+\frac{1}{2}i\bar{z}\right)=\frac{1}{2}(1+i)z+\frac{1}{2}(1-i)\bar{z}$$

(4) $z^2=a^2+2abi-b^2$ ①

$(\bar{z})^2=a^2-2abi-b^2$ ②

①+② から $z^2+(\bar{z})^2=2(a^2-b^2)$

したがって $a^2-b^2=\frac{1}{2}z^2+\frac{1}{2}(\bar{z})^2$

9 $\left(\alpha+\frac{1}{\alpha}\right)\left(\bar{\alpha}+\frac{1}{\alpha}\right)=4$ であるとき、複素数 α の絶対値 $|\alpha|$ を求めよ。

解答 $|\alpha|=1$

解説

$$\left(\alpha+\frac{1}{\alpha}\right)\left(\bar{\alpha}+\frac{1}{\alpha}\right)=\alpha\bar{\alpha}+\alpha\cdot\frac{1}{\alpha}+\frac{1}{\alpha}\cdot\bar{\alpha}+\frac{1}{\alpha\bar{\alpha}}=|\alpha|^2+\frac{1}{|\alpha|^2}+2$$

よって $|\alpha|^2+\frac{1}{|\alpha|^2}+2=4$ すなわち $|\alpha|^2+\frac{1}{|\alpha|^2}=2$

$|\alpha|^2=t$ とおくと $t+\frac{1}{t}=2$ 両辺に t を掛けて $t^2+1=2t$

よって $t^2-2t+1=0$ すなわち $(t-1)^2=0$ ゆえに $t=1$

すなわち $|\alpha|^2=1$ よって $|\alpha|=1$

10 α, z は複素数で、 $|\alpha|>1$ であるとする。このとき、 $|z-\alpha|$ と $|\bar{\alpha}z-1|$ の大小を比較せよ。

解答 $|z|>1$ のとき $|z-\alpha|<|\bar{\alpha}z-1|$, $|z|=1$ のとき $|z-\alpha|=|\bar{\alpha}z-1|$, $|z|<1$ のとき $|z-\alpha|>|\bar{\alpha}z-1|$

解説

$$|z-\alpha|^2-|\bar{\alpha}z-1|^2=(z-\alpha)(\bar{z}-\alpha)-(\bar{\alpha}z-1)(\bar{\alpha}z-1)=|z|^2-z\bar{\alpha}-\alpha\bar{z}+|\alpha|^2-(|\alpha|^2|z|^2-\bar{\alpha}z-\alpha\bar{z}+1)=|z|^2+|\alpha|^2-|\alpha|^2|z|^2-1=|z|^2(1-|\alpha|^2)-(1-|\alpha|^2)=(1-|\alpha|^2)(|z|^2-1)$$

$|\alpha|>1$ であるから $|\alpha|^2>1$ ゆえに $1-|\alpha|^2<0$

よって、 $|z|>1$ のとき $|z-\alpha|^2-|\bar{\alpha}z-1|^2<0$ すなわち $|z-\alpha|<|\bar{\alpha}z-1|$

$|z|=1$ のとき $|z-\alpha|^2-|\bar{\alpha}z-1|^2=0$ すなわち $|z-\alpha|=|\bar{\alpha}z-1|$

$|z|<1$ のとき $|z-\alpha|^2-|\bar{\alpha}z-1|^2>0$ すなわち $|z-\alpha|>|\bar{\alpha}z-1|$

11 α を複素数とする。等式 $\alpha(|z|^2+2)+i(2|\alpha|^2+1)\bar{z}=0$ を満たす複素数 z をすべて求めよ。

解答 $\alpha=0$ のとき $z=0$; $\alpha\neq 0$ のとき $z=-2\bar{\alpha}i, -\frac{1}{\alpha}i$

解説

$2|\alpha|^2+1>0$ であるから、等式より $\bar{z}=-\frac{\alpha(|z|^2+2)}{i(2|\alpha|^2+1)}=\frac{|z|^2+2}{2|\alpha|^2+1}\alpha i$

ゆえに $z=-\frac{|z|^2+2}{2|\alpha|^2+1}\bar{\alpha}i$ ①

$-\frac{|z|^2+2}{2|\alpha|^2+1}$ は負の実数であるから、 $-\frac{|z|^2+2}{2|\alpha|^2+1}=k$ とおくと $z=k\bar{\alpha}i$ ②

よって $|z|^2=z\bar{z}=k\bar{\alpha}i\cdot(-k\alpha i)=|\alpha|^2k^2$ ③

②, ③を①に代入して $k\bar{\alpha}i=-\frac{|\alpha|^2k^2+2}{2|\alpha|^2+1}\bar{\alpha}i$

ゆえに $(2|\alpha|^2+1)k\bar{\alpha}=-(|\alpha|^2k^2+2)\bar{\alpha}$

すなわち $[(|\alpha|^2k^2+(2|\alpha|^2+1)k+2]\bar{\alpha}=0$

よって $\alpha=0$ または $|\alpha|^2k^2+(2|\alpha|^2+1)k+2=0$

[1] $\alpha=0$ のとき、①から $z=0$

[2] $\alpha\neq 0$ のとき、 $|\alpha|^2k^2+(2|\alpha|^2+1)k+2=0$ の左辺を変形すると

$(k+2)(|\alpha|^2k+1)=0$

ゆえに $k=-2, -\frac{1}{|\alpha|^2}$ ($k<0$ を満たす。)

②から $k=-2$ のとき $z=-2\bar{\alpha}i$

$k=-\frac{1}{|\alpha|^2}$ のとき $z=-\frac{\bar{\alpha}}{|\alpha|^2}i=-\frac{1}{\alpha}i$

[1], [2] から、求める z は $\alpha=0$ のとき $z=0$, $\alpha\neq 0$ のとき $z=-2\bar{\alpha}i, -\frac{1}{\alpha}i$